



(C) Yasuhiro Sakur

高橋 望は考える音楽家であり、同時にまた感じる音楽家である。彼の弾く《ゴルトベルク変奏曲》のCDを聴いてそう思った。音楽という芸術、とりわけ演奏芸術においては、知性と感性のほどよいバランスが必要だが、これが存外難しい。特にJ.S.バッハの音楽を演奏する際にはこのことが肝要で、感じるがままに弾いた演奏はわざとらしくなるし、反対に、まるで研究発表のように堅い演奏もまた退屈なものだ。高橋の演奏は、そのバランスにおいてすぐれている。 ■樋口隆一（音楽学者、指揮者）

ドレスデン音大で名匠ペーター・レーゼに師事した高橋は、師のDNAさながらに作品を掘り下げる。定期的に取り上げているJ.S.バッハ《ゴルトベルク変奏曲》も発酵の極みを実感した。同曲をモダン・ピアノで奏する際、解釈も奏法も様々である。しかし高橋は全編、作品の真意探求と楽器の可能性を披露し、会場の空気感も功を奏しての名演。特に評価したいのは、弾く姿勢（体幹）に芯があることと、耳の良さとセンス。変奏曲だからと弾き走ることなく、強固でしなやかな構成感。2度、3度、4度と変わっていくカノンと、折り返して発展を見せる第16変奏以降の造りなど、モダン・ピアノだからこそその多彩さ。響きもアゴークも時おり、ロマン派に通じる表現を見せるが、その知的な揺らぎは、これまでの様々な研鑽の結晶だろう。やり過ぎにならない理性は高潔で、と同時にアリアを含む全30変奏の深みを愉しく聴かせる豊かなイマジネーション。それらを表現する柔らかく使われた関節からの技巧も見事。“タカハシのゴルトベルク”とも言える商品価値である。

（上田弘子氏「音楽の友」2016年4月号）

秩父市出身。ペーター・レーゼの愛弟子 高橋 望は、ライフワークとして毎年、大バッハの鍵盤音楽の集大成であるゴルトベルク変奏曲を採り上げているが、今回も用意周到に事前に勉強会を行い、リピート遵守で80分を超える演奏時間といい、実に聴きごたえのある演奏会となっていた。高橋の演奏はテンポこそ前回とほとんど変わらないようだったが、よりいっそう自由になり、細部が練れて来た感じ。機械的で平板なチェンバロと違う、歌える楽器 ピアノの広大な表現力を最大限に活かし切っており、「序曲」以降も音楽の流れが一新。高橋ならではの知的な分析力と構築性がその所を得ていた。

（浅岡弘和氏「音楽現代」2016年5月号）

### 《ゴルトベルク変奏曲の勉強会を開催します》

[日時] 2019年1月12日（土） 第1部：午後2時～3時30分、第2部：午後4時～5時30分 ※各回とも同じ内容です

[ところ] (株) B-tech Japan スタジオ (港区虎ノ門1-1-3 磯村ビル1階 Tel. 03-6205-4005)

[出演] 高橋 望 (お話、一部演奏)

[内容] リサイタルに先立ち、バッハについて、ゴルトベルク変奏曲について、楽譜を読めない方にも分かりやすくお話しします

[定員] 各回25名 (要予約、お早めにお申し込みください)

[参加費] 無料

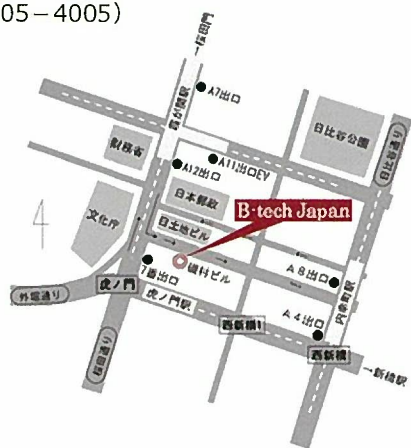
[対象] 1月19日ゴルトベルク変奏曲2019のリサイタルのチケットをお持ちの方

※勉強会当日にチケットをご持参ください。勉強会当日にチケットの購入もできます

[懇親会] 勉強会第2部終了後、同ビル2階の居酒屋さんにて懇親会を行います

合わせてご参加ください (事前申し込み不要)

[勉強会の参加申し込み先] ミリオンコンサート協会 Tel. 03-3501-5638



#### J.S.バッハ ゴルトベルク変奏曲

—レコード芸術準特選盤—

《現代ピアノにおいて可能な表情性をはっきり意識し活用している。美しい音楽を聴いているという実感が常にある。》(濱田滋郎氏)

[演奏] 高橋 望 (ピアノ・ベーゼンドルファーM275)

[収録曲] J.S.バッハ ゴルトベルク変奏曲

[価格] 2,500円 (税別)



#### NEW CD

J.S.バッハ

平均律クラヴィーア曲集第1巻

—バッハが描く森羅万象—

[演奏] 高橋 望 (ピアノ・ベーゼンドルファーM275)

[収録曲] J.S.バッハ 平均律クラヴィーア曲集第1巻 (2CD)

[価格] 3,500円 (税別)